

令和3年度全国学力・学習状況調査結果の分析と改善に向けて

日田市教育庁学校教育課

1 調査の概要

- (1) 実施期日
令和3年5月27日(木)実施
- (2) 調査対象学年
小学校第6学年(日田市:531人) 中学校第3学年(日田市:518人)
- (3) 調査内容
◇教科 小学校第6学年 国語、算数
中学校第3学年 国語、数学
◇質問紙調査(児童・生徒)
- (4) 調査内容の説明
◇「知識」に関する内容と「活用」に関する内容を一体的に問う調査問題
◇質問紙調査(児童・生徒)
・児童生徒を対象に学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
- (5) 用語の説明
◇正答率:全設問に対して児童生徒が正答した割合(集団の場合は平均値)。
◇全国比:全国の平均正答率を100とみたときの日田市の割合。
◇偏差値:個人や集団の相対的位置を、50を基準とした指数として表す指標。

2 結果の概要

【小学校6年生】

《平均正答率(%)》※色付き部分は全国値以上

	小学校6年生	
	国語	算数
日田市	64	67
大分県	66	70
全国	65	70
全国比	98	96

【中学校3年生】

《平均正答率(%)》※色付き部分は全国値以上

	中学校3年生	
	国語	数学
日田市	65	56
大分県	66	57
全国	65	57
全国比	100	98

3 教科に関する調査結果の分析及び改善の方策

小学校6年 国語

①結果の概要

- ◇平均正答率は全国平均正答率を下回った。
- ◇領域・事項は、「書くこと」で全国平均を上回り、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「話すこと聞くこと」「読むこと」は下回った。
- ◇評価の観点は、「知識・技能」「思考・判断・表現」で全国平均を下回った。
- ◇問題形式は「記述式」で全国を上回り、「選択式」「短答式」で全国平均を下回った。

②教科領域結果 ○：できている点 ●：課題がある点

言葉の特徴や使い方に関する事項

- 文の中における主語と述語の関係を捉えること。
- 語句の使い方を理解し、話や文章の中で使うこと。

話すこと・聞くこと

- 資料を用いた目的を理解すること。
- 目的や意図に応じ、資料を使って話す。

書くこと

- 目的や意図に応じて、理由を明確にして考えが伝わるように表し方を工夫すること。
- 自分の考えが伝わるように、文章全体の構成や展開を考えること。

読むこと

- 目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読むこと。
- 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むこと。

学びに向かう力に関連すること

- 無回答率（解答しなかった児童の割合）は全ての問題で全国よりも低い。

③具体的な授業改善の方策・ポイント

- ◇スピーチの授業を行う場合は、資料を提示しながら話す授業を行う。タブレット端末の Keynote 等を活用し、自分の考えを伝えるためにどんな資料が適切か吟味する時間を確保し、資料を作成しスピーチをする経験をさせる。
- ◇説明文は、書き手がどのような事実や理由を事例として挙げているのかに着目して、文章全体の構成を読むようにする。また、資料（図や表）と本文を結び付けて読む指導を充実させる。
- ◇意見文を書く授業では、「より説得力のある文章にする」ことを目的とし、理由を明確にして自分の考えが伝わるよう指導する。その際、異なる立場の読み手への反論を入れるなら「何を、どの段落に書けばより説得力が増すか」を考える時間を充実させる。

小学校6年 算数

①結果の概要

- ◇平均正答率は全国平均正答率を下回った。
- ◇領域は、「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」で下回った。
- ◇観点は、「知識・技能」「思考・判断・表現」で全国を下回った。
- ◇問題形式は、「選択式」「短答式」「記述式」で全国平均を下回った。

②教科領域結果 ○：できている点 ●：課題がある点

数と計算

- 基準量を1としたときに比較量が示された小数にあたる理由を記述すること。
- 示された除法の結果について、日常生活の場面に即して判断することができる。

図形

- 直角三角形の面積を求める式と答えを書く。
- 複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目して、面積の求め方と考えを記述すること。

測定

- 条件に合う時刻を求めることができる。

変化と関係

- 速さを求める除法の式と商の意味を考えることができる。

データの活用

- 棒グラフから、数量や項目間の関係を読み取ること。
- 帯グラフで示された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述できる。

学びに向かう力に関連すること

- 無回答率（解答しなかった児童の割合）は16問中15問で全国よりも低い。

③具体的な授業改善の方策・ポイント

◇図形の学習では、問題提示や考えを出し合う場面で視覚的に捉えさせるためにICT機器を積極的に活用する。面積の学習では、辺や高さ等の数値が示されていない図を示し、求積のためにどの部分を測る必要があるのか考え、実際に測定して面積を求める学習を仕組む。他の単元の学習においても、多くの情報から必要な情報を取捨選択する力を付けるために、情報過多の問題を意図的に提示する等の工夫を行う。

◇速さの学習では、計算から求めた答えが「1mあたりにかかる時間」「1秒あたりに進む道のり」のどちらを表しているのか考える活動や、どちらが速いか比較し、根拠を説明させる活動を行う。他の単元の学習においても、計算結果の数値に単位をつける等、計算の結果が何がわかったのか考えさせる授業を充実する。

◇データを分類整理する学習では、「グラフや表に表すこと」と「グラフや表から何が読み取れるのか」を大切にする。

中学校3年 国語

①結果の概要

【国語】

- ◇平均正答率は、全国平均正答率と同じ。
- ◇領域・事項は、「話すこと・聞くこと」「書くこと」で全国を上回り、「読むこと」「言語文化と国語の特質」で全国平均を下回った。
- ◇評価の観点は、「国語への関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「書く能力」で全国を上回り、「読む能力」「言語についての知識・理解・技能」で全国平均を下回った。
- ◇問題形式は、「選択式」「記述式」で全国平均を上回り、「短答式」で下回った。

②教科領域結果 ○：できている点 ●：課題がある点

話すこと・聞くこと

- 質問の意図を捉えること。
- 話合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考えること。

書くこと

- 書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書くこと。
- 書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫を考えること。
- 伝えたいことが相手に効果的に伝わるように書くこと。

読むこと

- 文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつこと。
- 場面の展開、登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解すること。
- 登場人物の言動の意味を考え、内容を理解すること。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- 文脈に即して漢字を正しく読むこと。
- 相手や場に応じて敬語を適切に使うこと。
- 事象や行為などを表す多様な語句について理解すること。

学びに向かう力に関連すること

- 無回答率（解答しなかった生徒の割合）は全ての問題で全国よりも低い。

③具体的な授業改善の方策・ポイント

- ◇職場体験等の校外学習や、外部への講師依頼を実際に生徒に書かせる活動を仕組み、相手や内容に応じて、国語で学習した「尊敬語」「謙譲語」「丁寧語」を適切に使う場面を設定する。
- ◇「読むこと」の学習においては、本の紹介を書くブックカバーづくり等読む目的や意図を明確にして授業を行う。授業では場面の展開、登場人物の心情や行動に注意して読むことに加え、文章に表れているものの見方や考え方を捉えて自分の考えを持つことも大切にする。
- ◇言語に関することは、AIドリルを活用し繰り返し学習することで定着を図る

中学校3年 数学

①結果の概要

- ◇平均正答率は全国平均正答率を下回った。
- ◇領域は、「関数」「資料の活用」で全国を上回り、「数と式」「図形」で下回った。
- ◇観点は、「数学的な技能」で全国を上回り、「数学的な見方や考え方」「数量や図形などについての知識・理解」で下回った。
- ◇問題形式は、「短答式」で全国を上回り、「選択式」「記述式」で下回った。

②教科領域結果 ○：できている点 ●：課題がある点

数と式

- 整式の加法と減法ができること。
- 具体的な場面で、一元一次方程式をつくること
- 式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明すること。
- 数学的な事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明すること。

図形

- 平行四辺形の条件を用いて、四角形が平行四辺形になることの理由を説明すること。
- 錯覚が等しくなるための、2直線の位置関係を理解し、2つの直線の関係を表すこと。

関数

- 関数の意味を理解し表現すること。
- 与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ること。
- 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること。

資料の活用

- 与えられたデータから中央値を求めること。
- データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること。

学びに向かう力に関連すること

- 無回答率（解答しなかった生徒の割合）は全ての問題で全国よりも低い。

③具体的な授業改善の方策・ポイント

- ◇事象を数学的に考察する学習では、事象の特徴を的確に捉えさせるために、成り立ちそのような事柄を予想し確かめる段階を（例：4つの数の和は4の倍数になっている）、ICT機器を活用して全員で共有することを大切にする。また、「いつでも事柄が成り立つわけを説明する際は、書き出しやゴールの言葉を示す等、見通しをもって学習ができるよう指導する。
- ◇資料の活用の学習では、データの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明させる学習を充実させる。その際、教師は「期待する説明」をもって授業に臨み、データの着目する部分や説明の過不足について生徒に考え、表現させる時間を多くとるよう留意する。
- ◇図形の学習で、筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明する授業では、説明の前に解決の方針を必ず立てさせ、共有したうえで説明を考えさせる。

4 児童・生徒質問紙調査結果について

(1) **生活習慣・家庭での学習習慣等に関する回答状況** (数値は肯定的回答の割合 %)

※色つき：全国値より5%以上

※太線枠：全国値より5%以下

【自尊心・将来に対する意識・学校生活・規範意識等】

質問事項	小学校6年生			中学校3年生		
	日田市	大分県	全国	日田市	大分県	全国
自分には、よいところがあると思いますか	69.5	76.1	76.9	77.4	76.1	76.2
将来の夢や目標を持っていますか	79.1	80.0	80.3	68.2	68.3	68.6
学校に行くのは楽しいと思いますか	75.3	82.3	83.4	78.9	81.2	81.1

【基本的な生活習慣・家庭での学習習慣】

質問事項	小学校6年生			中学校3年生		
	日田市	大分県	全国	日田市	大分県	全国
朝食を毎日食べていますか	89.8	94.4	94.9	92.3	92.8	92.8
家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか	64.7	76.0	74.0	63.3	61.0	63.5

【社会に対する意識・地域との関わり】

質問事項	小学校6年生			中学校3年生		
	日田市	大分県	全国	日田市	大分県	全国
新聞を読んでいますか ※週に1回以上	10.6	10.7	14.9	8.9	8.6	10.4
今住んでいる地域の行事に参加していますか	71.2	60.0	58.1	62.9	44.9	43.7

(2) **教科の学習に対する関心・意欲・態度に関する回答状況**

【国語（読書）に関すること】

質問事項	小学校6年生			中学校3年生		
	日田市	大分県	全国	日田市	大分県	全国
国語の勉強は好きですか	56.3	62.3	58.4	66.6	63.1	60.8
㊦国語の勉強は大切だと思いますか	90.5	93.6	93.2	94.2	92.1	91.6
国語の授業の内容はよく分かりますか	80.5	87.1	84.2	81.1	80.6	80.1
㊦国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	89.2	92.6	91.8	91.3	89.5	88.7

㊦国語の授業では、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりしていますか	77.3	84.2	82.2	83.6	82.5	81.8
国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしていますか	58.8	64.3	63.8	63.0	61.7	61.3
㊦国語の授業では、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係が分かるように書いたり表現を工夫して書いたりしていますか	61.2	72.7	71.6	72.4	75.2	74.6
㊦国語の授業では、目的に応じて文章を読み、(小：感想や考えをもったり、自分の考えを広げたりしていますか) (中：内容を解釈して自分の考えを広げたり深めたりしている)	67.6	74.4	74.3	77.4	77.5	77.0
解答を文章で書く問題がありましたが、どのように解答しましたか ※全て最後まで書こうと努力した	98.0	97.9	97.5	98.3	97.3	96.8

【算数・数学に関すること】

質問事項	小学校6年生			中学校3年生		
	日田市	大分県	全国	日田市	大分県	全国
算数・数学の勉強は好きですか	61.6	67.9	67.8	58.5	59.6	59.1
㊦算数の勉強は大切だと思いますか	91.5	94.3	93.8	87.7	85.6	84.1
算数・数学の授業の内容はよく分かりますか	79.7	85.9	84.6	73.4	74.6	74.6
㊦算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	90.0	93.0	92.6	78.2	76.4	74.6
算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか	67.8	75.5	73.9	51.2	53.1	50.6
算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか	77.2	83.2	82.7	73.0	75.5	75.8
算数・数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけ(根拠)を理解するようにしていますか	85.3	90.0	89.0	81.7	82.5	83.5
㊦算数・数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか	94.0	93.5	91.9	95.2	89.4	86.6

言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く（解答を言葉や数、式を使って説明する）問題がありましたか、どのように解答しましたか ※全てで最後まで書こうと努力した	98.8	98.1	97.8	96.5	94.7	94.4
---	------	------	------	------	------	------

【授業改善・学習指導】※「主体的・対話的で深い学び」「新大分スタンダード」に関連

質問事項	小学校6年生			中学校3年生		
	日田市	大分県	全国	日田市	大分県	全国
話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか	70.4	77.1	78.8	78.0	78.6	77.8
授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか	71.3	78.5	78.2	79.9	79.8	81.0
自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか	52.2	58.9	63.5	55.7	56.8	62.0

(3) 分析

【小学校6年生】

- 生活習慣・学習習慣に課題が見られる。
- 教科の学習に対する愛好度や理解度が低い傾向にあり、自尊感情や学校生活の充実度や満足度の数値が低いこととも関連していると考えられる。
- 全国に比べ積極的に地域行事へ参加しており地域との結びつきが強いことから、児童の健全育成のために地域から協力を得やすい環境である。
- 記述問題に対して「全てで最後まで書こうと努力した」と回答した児童の割合が全国よりも高い。無回答率も低く、最後まであきらめず取り組む粘り強さがある。

【中学校3年生】

- 多くの項目が全国と同程度または上回っており、生活習慣・学習習慣ともに安定した数値を示している。自尊意識や学校生活の充実度や満足度の数値の向上が、生活や学習の安定につながっている。
- 「国語が好き」と答えた生徒の割合が高く、教科への愛好度と教科の正答率は関連している傾向にある。
- 「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している」回答した生徒の割合が全国値を6%以上下回っており、授業で生徒に発言させる場の保証と質の向上が必要となる。

②改善の方策

- ◇小学校6年生に対しては、授業で「わかる」「できた」喜びを味わわせ、自尊感情や学校生活の満足度を向上させるためのサイクルを確立する必要がある。そのため、授業で付けた力（できるようにしたいこと）をより明確にし、児童とめあてを共有した授業の推進を行う。
- ◇中学校は、県全体で取り組んでいる「中学校学力向上対策3つの提言」の取組を継続する。特に「生徒とともに創る授業」を大切にし、ねらいや目的を明確にしてグループ活動を仕組み、全員に「考えさせ」「発言させる」ための授業改善の推進を行う。

5 クロス集計について

(1) クロス集計結果の概要（色付きは最も正答率が高いもの）

①児童生徒の朝食を食べる割合と平均正答率の関係（平日）

選択肢	小学校 6 年生		中学校 3 年生	
	国語正答率	算数正答率	国語正答率	数学正答率
毎日食べる	65.2	68.2	65.6	56.7
ほとんど毎日食べる	62.4	64.5	64.5	56.4
あまり食べない	54.2	54.1	58.5	45.9
全く食べない	56.7	62.1	53.1	37.9

②児童生徒の就寝時刻と平均正答率の関係（平日）

選択肢	小学校 6 年生		中学校 3 年生	
	国語正答率	算数正答率	国語正答率	数学正答率
決まった時刻に就寝	67.9	70.5	65.0	57.2
ほぼ決まった時刻に就寝	64.0	67.6	65.6	56.2
あまり決まっていない	59.5	60.1	63.0	52.6
全く決まっていない	50.8	58.3	61.3	49.0

③児童生徒の 1 日当たりのゲーム時間と平均正答率の関係（平日）

選択肢	小学校 6 年生		中学校 3 年生	
	国語正答率	算数正答率	国語正答率	数学正答率
1 時間未満	68.5	71.3	72.7	67.1
1 時間以上、2 時間未満	67.5	69.5	67.5	60.0
2 時間以上、3 時間未満	65.7	68.0	61.2	51.7
3 時間以上、4 時間未満	57.7	62.1	61.8	50.8

※スマートフォン等、携帯電話を使ったゲームも含まれる

(2) 分析結果

○「朝食を毎日食べる」「決まった時刻に就寝する」「ゲームの時間が 1 時間未満」等、基本的な生活習慣が確立している児童生徒ほど、平均正答率が高い傾向が見られる。新型コロナウイルス感染症による臨時休業や欠席等により、自宅で過ごす機会が増えることが考えられることから、児童生徒の成長のために家庭との連携が一層必要と考えられる。

(3) 改善の方策

◇学力向上会議や学級懇談会、学校便り、ホームページ等を通して、規則正しい生活と学力の相関関係を示し、基本的な生活習慣の確立に向け家庭への協力を求める。あわせて、付きたい力の確実な定着・向上につながる家庭学習の取組を、家庭と協働して進める。

6 学校質問紙調査結果について

(1) 学校質問紙調査結果の概要（数値は肯定的回答の割合 %）

※色つき：全国値より5%以上 ※太線枠：全国値より5%以下

【児童・生徒の学習状況】※「学びに向かう力」に関連

質問事項	小学校6年生			中学校3年生		
	日田市	大分県	全国	日田市	大分県	全国
調査対象の児童生徒に、前年度までに、学習規律を維持しましたか	88.3	96.8	96.9	90.9	98.3	98.8
調査対象の児童生徒は授業中の私語が少なく、落ち着いていると思うか	88.2	88.1	88.5	100.0	91.6	96.0

【授業改善・学習指導】※「主体的・対話的で深い学び」「新大分スタンダード」に関連

質問事項	小学校6年生			中学校3年生		
	日田市	大分県	全国	日田市	大分県	全国
課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができているか	88.2	88.9	85.3	100.0	89.0	86.0
習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか	88.2	91.8	88.1	81.8	91.5	86.9

【授業改善・学習指導：国語に関すること】

質問事項	小学校6年生			中学校3年生		
	日田市	大分県	全国	日田市	大分県	全国
㊦言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業を行いましたか	88.2	93.0	91.4	100.0	93.3	94.8
目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行いましたか	88.2	94.3	92.8	100.0	92.4	88.3
㊦書く（根拠を明確にして、表現を工夫して）習慣を付ける授業を行いましたか	88.2	89.4	89.6	90.9	96.7	94.3
㊦目的に応じて読み、自分の考えを広げたり深めたりする授業を行いましたか	88.3	93.0	93.9	100.0	94.9	92.7
発展的な学習の指導を行いましたか	70.6	72.9	56.6	90.9	86.6	72.9
補足的な学習の指導を行いましたか	100.0	91.4	85.4	100.0	95.0	86.5

【授業改善・学習指導：算数・数学に関すること】

質問事項	小学校6年生			中学校3年生		
	日田市	大分県	全国	日田市	大分県	全国
実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	82.3	81.2	82.2	90.9	86.5	78.1
㊦観察や操作、実験などの活動を通して、数量や図形などの性質を見いだす活動を行いましたか	82.3	92.6	91.9	81.8	83.1	76.2
㊦公式やきまりなどを指導するとき、児童生徒がその根拠を理解できるように工夫していましたか	100.0	98.0	97.1	100.0	97.5	96.5

◎問題の解き方や考え方の過程が分かるように工夫してノートを書く指導を行いましたか	94.2	94.7	92.9	100.0	94.9	89.5
発展的な学習の指導を行ないましたか	70.6	76.7	67.1	81.8	84.0	75.8
補充的な学習の指導を行いましたか	100.0	97.5	94.6	100.0	94.1	92.7

【家庭学習】

質問事項	小学校6年生			中学校3年生		
	日田市	大分県	全国	日田市	大分県	全国
家庭学習の与え方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか	94.1	93.9	90.6	90.9	93.3	85.5
家庭学習の取組として、学校では、児童生徒に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えるようにしましたか	94.1	97.5	95.5	91.0	96.6	91.9

【開かれた教育課程について】

質問事項	小学校6年生			中学校3年生		
	日田市	大分県	全国	日田市	大分県	全国
教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか	94.1	84.8	85.7	100.0	86.6	87.2
保護者や地域の人が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事などの活動に参加していますか	94.1	97.1	95.7	100.0	90.7	85.3

(2) 分析結果

【小学校】

- 「学習状況」について小学校5年生までの学習規律の維持について全国を下回った。
- 「授業改善・学習指導」に関連する質問事項の多くで、全国値と同程度以上となっており、新大分スタンダードに基づく授業改善の取組が推進されている。
- 国語・算数における「発展的な学習の指導」の数値が全国を上回り、思考力・判断力・表現力等の活用する力の向上を目指した授業改善の取組が推進されている。「補充的な学習の指導」は全ての学校で取り組まれており、「個に応じた指導の充実」が図られている。算数においては、操作や実験等の活動から、性質を見出す活動の充実が求められる。
- 「開かれた教育課程」に関連する項目については、学校運営協議会がすべての学校に設置されたことから、前回調査より大きく向上している。

【中学校】

- 「学習状況」について中学校2年生までの学習規律の維持について全国を下回った。
- 「授業改善・学習指導」に関連する質問事項の多くで、全国値と同程度以上となっている。校内教科部会及び日田市中学校教科部会による組織的な取組の成果と考えられる。
- 習得・活用及び探求の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫に課題が見られた。今後は、各教科を関連させて単元を見通した指導の充実が求められる。
- 「開かれた教育課程」に関連する項目については、学校運営協議会がすべての学校に設置されたことから、家庭・地域と教育課程の趣旨や目指す生徒像の共有が図られた

(3) 改善の方策

- ◇若手教員の人材育成の観点からも、全ての学校において、組織的な授業改善の推進が求められるため、管理職・教務主任等による授業参観及び計画的な互見授業の取組を継続する。
- ◇単元を通して資質・能力をバランスよく育成するために、単元プランを作成し、付けたい力を明確にした指導の充実を図る。中学校においては、学年部・教科を越えた授業改善のさらなる推進を目指す。
- ◇学校運営協議会を活用し、児童生徒の学習定着状況を共有することで、家庭や地域との学力向上の取組の連携を推進する。

7 現状と今後の取組

<現状>

【小学校6年生】

- 国語・算数とも平均正答率が全国平均を下回ったが、国語は日田市実施分1月学力調査結果より改善が見られた。
- 質問紙調査では、基本的な生活習慣、学習意欲、教科の愛好度及び理解度、自己肯定感等の肯定的回答が全国平均を下回っている。
- 無回答率が低く、粘り強く解答しようとする姿勢が見られる。また、地域行事の参加等、社会参画意識が高い。

【中学校3年生】

- 国語は平均正答率が全国平均と同程度、数学は平均正答率が全国平均を下回った。
- 質問紙調査では、多くの項目が全国と同程度または上回っており、生活習慣・学習習慣ともに良好な状況にある。
- 考えを発表する場面で、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表しようとする意識が全国平均を下回った。

<今後の取組>

①日田市学力向上の取組（令和3年4月作成）の継続

※3つの柱（「授業改善の推進」「学習定着状況の確実な把握」「個に応じた指導の充実」）の中で重点的に取り組む内容

授業改善の推進

○小学校（特に6年生）

- ・「わかる」「できた」を経験させる授業の徹底
→付けたい力を明確にする（1つに絞る）ことで、教師も児童も「今日何をできるようにすればよいか（何ができるようになればよいか）」を明確にする。ICT機器の活用により視覚的な支援を工夫し「わかった」「できた」を経験させること、適切に評価を行うことで、教科の愛好度・自己肯定感の向上を図る。

○中学校

- ・「中学校学力向上対策3つの提言」（特に生徒とともに創る授業）の取組の徹底
→「全ての生徒に発言させる」ことからスタート。ペアやグループ活動を活用しながら、互いの考えを複数回伝え合わせる等、大切な発言については、他の生徒を指名して同じ考えでも「言わせる」ことを意識する。

学習定着状況の確実な把握

- ・授業及び家庭学習による日常的な学習定着状況の把握
- ・評価テスト、単元末テスト等による定期的、客観的な学習定着状況の把握
→短い期間でP D C Aのサイクルを行う

個に応じた指導の充実

- ・単元末の習熟度別学習や朝会・帯タイム等を活用した補充学習の推進
→学年部・教科部会等で自校の課題解決に向けた取組を組織的に行う
(A I ドリル「Qubena」・問題データベースの活用 等)

②各学校による調査結果の分析と具体的な対策の作成及び取組

- ・各学校は9月下旬までに調査結果を分析し、成果と課題を明らかにしたうえで、授業改善等の具体的な対策を講じ、10月から取組を始める。

分析：どんな取組が良かったのか、何が足りなかったのか

↓

対策：授業改善、指導体制の工夫、学習規律の見直し、家庭学習の見直し 等

③1月の日田市学力調査において、各学校の学力向上の取組の成果を検証

- ・短いスパンでP D C Aを行い、児童生徒の確実な学力の定着を図る。